

平成 30 年度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

目 次

はじめに	1
I. 学校法人京都外国語大学事業計画	2
財務運営に係る事業計画の骨子	
重点取組	
1. 人材育成に係る研修等制度の充実	
2. 学園整備プランに基づく施設設備改修	
3. IT化の推進と働き方改革による業務革新	
II. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画	3
ミッション	
目的	
ビジョン	
重点取組	
各部署取組	
各学科行事等	
III. 京都外大西高等学校事業計画	8
高校のビジョン	
方針	
重点取組	
主な取組内容	
IV. 京都外国語専門学校事業計画	10
専門学校のビジョン	
方針	
主な取組内容	
(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的	
	11



はじめに

周知のように、平成30年度以降の**私立学校、特に私立大学・短期大学**を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面にあると予測されている。少子化が進行する一方、「大学全入時代」を迎えているという中で、大学間の競争が激しくなり、どの私立大学・短期大学でも、改革・改善・試行等に全力で取り組んでおり、各**私立高等学校、専門学校**においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などに懸命な対策が執られている。

本学園は、平成29年度に学園創立70周年を迎え、改めて、他に類を見ない「平和実現への志」が織り込まれた建学の精神を堅持しながら、平成30年度には大学に国際貢献学部を開設し、先進的な教育プログラムへの取組を本格化するなど、世界を見つめ、社会のニーズに応じていく学園として一層の充実を図っていく。

各設置学校においては、国の私学関係予算などにも留意しながら、運営の根幹につながる入学志願者の安定的確保や財務基盤の維持等に最大限の力を注いで、教学部門・経営部門の運営にあたる。



平成30年度における学校法人京都外国語大学の事業計画について、次ページ以降に、

- I 「学校法人京都外国語大学事業計画」に続き、4つの設置学校について、
- II 「京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画」、
- III 「京都外大西高等学校事業計画」、
- IV 「京都外国語専門学校事業計画」の順で、その概要を簡潔に説明することとする。

【注】以下、適宜、京都外国語大学を「大学」、京都外国語短期大学を「短期大学」、両者に大学院を加えて「本学」、京都外大西高等学校を「高等学校」、京都外国語専門学校を「専門学校」などと表記している場合がある。



I. 学校法人京都外国語大学事業計画

【財務運営に係る事業計画の骨子】

学園の財務運営については、安定的な財務基盤の確立を基本としており、限られた財源の中で「事業の選択と集中」をより強化し、危機感とスピード感を持って経営改革に取組み、将来に亘っての安定的な財務基盤構築を目指しながら、教育研究活動と教育研究環境の持続的な充実を図る。

【重点取組】

1. 人材育成に係る研修等制度の充実

平成 28 年度に導入した教職員の評価制度では、評価の実施と同時に各自のキャリアを考えるキャリア申告・キャリア面談を組み入れており、能力向上の機会として活用し、人材育成の強化を図ることとしているが、組織を取り巻く環境が日々変化している中、組織が新たな価値を生み出すためには、職員一人一人が問題意識を持つことが大切である。

また、大学設置基準の一部が改正され、SDが義務化されたことなどから、以下の制度を整え、職員の自主的なスキルアップを支援していく。

- ・職階別研修会の実施
- ・大学職員として必要な研修会への参加
- ・業務に応じた資格取得に対する助成
- ・積極的なキャリアアップ（自己啓発）に対する助成

その他、人事評価制度も導入から 3 年目を迎えるため、制度の見直し等を行い、更なる制度の充実を図る。

2. 学園整備プランに基づく施設設備改修

今後の耐震改修及び改築を含めた学園校地校舎に係る耐震対策の計画策定のため、学園の耐震診断を早期に完了する。高等学校、専門学校は耐震診断を完了しているため、平成 30 年度は大学 2 号館、平成 31 年度は 7 号館北部分を予定。

施設・設備修繕に関しては、空調機の経年劣化を主テーマに修繕計画を立てるほか、年次計画に基づき進めているトイレ改修工事等、学修環境向上のための工事を実施する予定である。

3. IT 化の推進と働き方改革による業務革新

学校法人京都外国語大学情報化推進本部において平成 27 年 11 月に策定した、学園 IT 化マスタープランに従い、以下の計画を実施する。

- ① IT 業務運用のためのリソース確保
- ② 業務自動化による効率化・省力化による働き方改革
- ③ 教室 AV 改修、教室 PC 更改等老朽化設備・システムの更新



Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

【ミッション】

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、

- ① 確かな日本語力と実践的な外国語運用力
- ② 社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成する。



【目的】

1. 京都外国語大学

学術の中心として広く知識を授け、豊かな教養に基づく円満な人格と国際的視野とを養い、専門の外国語とその文化について深く教授研究し、国際的活動を通して社会に貢献し得る人材の育成する。

2. 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

3. 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいえるべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾11頁以降参照。



【ビジョン】

建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」の国内外への発信と次世代指導者の育成

【重点取組】

1. 新学部の立ち上げ

平成 30 年度に開設した国際貢献学部の円滑な運営のため、各部署において以下の取組を行う。

- ① 開設初年度広報として、大学 Web サイト、進学情報サイト、情報誌、DM 等を使い、志願者確保及び一期生輩出までをにらんだ長期広報の足固めを行う。（広報室）
- ② 授業運営の円滑実施（教務部）
- ③ 奨学金制度の見直し（学生部）
- ④ 特定指定校の開拓及びグローバルアドミッションオフィサーとの連携による外国人留学生の受験者確保（入試センター）
- ⑤ フィールドワーク各プログラムの実施要項、特に危機管理体制の確立。
（コミュニティ・エンゲージメントセンター）
- ⑥ カリキュラムに対応した蔵書構成の充実（図書館）

2. 「コミュニティ・エンゲージメント」を柱とする実践的教育プログラム策定

本学の目指すコミュニティ・エンゲージメントとは、国内外の多様な地域社会・社会的活動への参加を通じて、政治的・文化的境界を超えた人間のグローバルな結合の在り方を学ぶ実践的な学習を意味している。

平成 30 年度は、コミュニティ・エンゲージメントセンターを中心として、プログラムに対する支援、開発及び実施体制の整備に取り組むこととしている。

3. 新 5 カ年計画策定と実行

今日の高等教育における質保証の動向を踏まえ、建学の精神に基づく国内外への情報の発信と次世代リーダーの養成を図り、社会的な説明責任の要請等に応じていく観点から、大学・短期大学にあっては、平成 25 年度、学長のもとに当該策定委員会等を設け、本学の教育理念及びその具体的な教育目標等を念頭に所要の検討を行い、大学及び短期大学の「5 カ年計画」（計画期間：平成 25 年度から平成 29 年度）を中期将来計画として定めた。

平成 30 年度からは新 5 カ年計画（計画期間：平成 30 年度から平成 34 年度）を策定、以下の 4 つのテーマに沿った計画の完遂を図る。

《4 つのテーマ》

- I 教育システム、教育体制の再構築
- II 学習支援体制・キャンパスライフ環境の充実
- III ガバナンス改革・マネジメント改革
- IV 研究・地域貢献活動の充実



【各部署取組】

1. 総合企画室

- ・学長の意思決定のもと、全学的な課題等に関する施策の企画・立案及び連絡調整を行う。
- ・IR機能をさらに充実し、企画・立案・評価に必要な大学に関する諸データを収集・分析し、効果的な大学運営及び適切な意思決定に活用する。
- ・新たな自己評価の体制を整備する。

2. 総務部

- ・教育研究環境・生活環境等の健全化を図るため、学内施設の整備・点検を行い安心安全の確保に努める。

3. 広報室

- ・外国人留学生の志願者増のため、大学Webサイトの英語サイトの充実を図る。また、英語版大学紹介動画の制作、保護者向けパンフレットの作成等も行う。
- ・プレスリリース数の増加、訴求力のある大学案内や学内広報誌の作成、屋外広告物の活用等を通じて、国際色豊かな大学としてのブランド力を確保する。

4. 教務部

- ・教育課程優先の時間割を編成し、開講科目の精査及びスリム化を図る。
- ・外国語学部のカリキュラム改定が完成年度を迎えたため、引き続き制度上の不備を見直し、矛盾点を解消する。
- ・卒論作成・提出システムの構築等、システム整備を行い、学生に対するサービスの向上を目指す。

5. 学生部

- ・学生生活が有意義になるよう経済面、生活面、課外活動について、学生サービスの向上を図る。
- ・学生情報一元管理システムを構築する。
- ・健康サポートセンター 障がい学生支援室を開設し、支援業務を軌道にのせる。
- ・学生会への指導・助言を更に強化し、課外活動の充実・整理を図る。
- ・授業時間変更（100分）による課外活動対応（活動時間の変更、使用施設の確保等）を行う。
- ・感染症防止対策等の啓発・強化を行う。

6. 入試センター

- ・外国語学部と国際貢献学部の一般入試における受験方式を統一し、学部・学



科併願を推進する。

- ・本年度本学が、大学入試センター試験の会場校となるため、遺漏のないよう実施する。
- ・大学入試センター試験の新テスト移行に備え、特に英語に関して語学検定試験を活用した入試を推進する。
- ・オープンキャンパスを活用したAO入試を推進する。
- ・併設校・指定校・特定指定校・海外帰国生徒指定校からの推薦基準に語学検定試験での成果を組み込み、専願枠での入学者を拡大する。
- ・平成32年度の編入学定員の変更に伴い、併設短期大学・専門学校と連携しやすい制度整備を行う。

7. 国際部

- ・グローバル人材育成のため、従来の語学中心の留学に加え、アクティブラーニング型の留学機会を整備する。
- ・産官学連携や官民協働留学支援制度等の有効利用、採択率の向上を図る。
- ・外国人留学生と日本人学生が共に学べる環境を構築する。

8. キャリアセンター

- ・初年次から、継続性を持たせた内容の就職ガイダンスを段階的に実施する。
- ・学生の就職先として適切な企業を開拓・訪問し、学内における合同・個別説明会への誘致や学校推薦枠の獲得に尽力し、企業との関係性を強化する。
- ・履歴書・エントリーシート作成、面接対策、グループディスカッション対策、筆記試験対策など、多様化する採用選考に対応できるスキルを獲得できるよう、各種講座やセミナーを実施する。
- ・留学生や障がい学生等、固有のニーズを持つ学生に特化したセミナーを開催するとともに国内外の企業から求人獲得を行い、就職活動を支援する。

9. コミュニティ・エンゲージメントセンター

- ・全学共通のテーマとして、大学の社会への関わりや、学生の社会貢献の基礎経験を養う仕組みを創設する。
- ・生涯学習・科目等履修・エアラインスタディプログラム等の円滑な運営
- ・模擬国連、UNESCOスクールなど建学の精神の具現化を目指す高大連携イベントの支援。

10. 図書館

- ・業務の三要素（①資料の収集②資料の整理・蓄積③資料の提供）を円滑に推進するため、学内の研究と教育の内容に添って資料収集を進め、整理・蓄積と提供を行い、利用者へのサービス向上を目指す。
- ・蔵書構成の特徴である「対外交渉」や「欧米人による日本研究」等を中心とした稀覯書のデジタル化、主題別書誌データベース作成、展示会の開催等に



より「特徴ある図書館活動」を展開し、文化的発信を高めて、大学全体のブランド力強化につなげていく。

- ・ 図書館の環境を利用したICTを活用した教育の研究とその整備に努め、主としてラーニングコモンズエリアの整備を検討し、e-learning、active learning教育システムの充実を図る。
- ・ 外国語自律学習支援室NINJAの運用・取組の見直しを進め、学生に対してより有意な支援室の活動を検討・実行する。

12. 国際言語平和研究所

- ・ 科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得に向け、積極的な施策を展開する。
- ・ 『研究論叢』『COSMICA』を発行するとともに、2学部体制となった本学の研究発信力を高める工夫をする。
- ・ 単著・共著を含む学術的価値の高い図書・論文またはその翻訳の刊行について、学内出版助成事業として2～3件を採択する。
- ・ 国際言語文化学会の運営充実のため、引き続き年次大会・研究会の開催等、質の高い研究活動を実施する。
- ・ アカデミックサポート室業務の充実。
- ・ 国際文化資料館における寄贈資料を活用したコレクションの充実と展覧会の開催、公開講座の実施。
- ・ 国内外の機関（博物館等）との連携充実。

11. 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

- ・ 研究活動として、ラテンアメリカ地域に関する研究講座の開催、研究論集「紀要」（年1回）の発行等を行う。
- ・ 教育啓蒙活動として、ラテンアメリカ地域に関する教養講座の開催、研究所ニューズレター（年2回）の発行等を行い、本学の取組の一般市民への理解を図る。

【各学科行事等】

本学のキャンパス国際化推進の一環として取り組んでいるナショナル・ウィークは、平成30年度に8年目を迎えることから、これまでの経験を活かしながら一層充実させて取り組むこととしている。また定期的に行っている各学科主催の弁論大会や各種講演会等も同様に、学生・教職員が協力し、できるだけ多くの市民にも参加してもらえよう工夫も凝らし、大学・短期大学の良さをPRしていく考えである。



Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

【高校のビジョン】

建学の精神「不撓不屈」に則った総合的人間育成

本校の建学の精神は、本学園創立者の出身地、会津若松の藩校「日新館」の教育において、「不撓不屈」の精神をもって断固として困難に立ち向かう「ならぬことはならぬ」の教えが貫かれていたことに由来しており、「なし得ること、なさねばならぬことはたとえどのような困難をともしなう場合であっても、不撓不屈の精神をもって断固として貫徹しよ」との教えである。本校での様々な活動を通じ、複雑な現代社会をこの「不撓不屈」の精神で「強く、正しく、明るく」生き抜く生徒を育成する。

【方針】

京都外国語大学との高大連携を一層推進するとともに、グローバル人材の育成、高大接続・大学入学者選抜への対応、教員の資質能力の向上等、「不撓不屈」の建学の精神に基づき、より質の高い、多様な生徒の要望に応えうる教育の場として発展する。

【重点取組】

1. 経営改善計画の着実な実行

中期計画に基づいた人件費抑制、教員の授業時間数の見直し等、経費の節減と支出の抑制への努力を継続し、経営状況改善に向け、取組を強化する。

2. 国際バカロレアプログラム推進

平成29年度は、国際バカロレアの理念やカリキュラム、学習内容への理解を深め、プログラム導入の可能性について検討を行ってきた。

今年度も、教員のワークショップへの参加等、認定に向けた作業を進めることとしている。

【主な取組内容】

1. 生徒募集

平成29年度入試より総合進学コースを設置するなど見直しを実施したが、国際文化コースにおける外国人教員の対外広報活動への参加等、各コースの特色にあった有効的広報、募集活動を行い、各コースにおける定員を確保する。

2. 英語教育の充実等

新学習指導要領の適用に向けて、アクティブラーニングの視点に立った授業研究及び英語教育推進は不可欠であり、これらに関する学内研修を今年度も行



うほか、文部科学省主催の英語教員研修への教員の参加を推進する。

その他、国際交流の充実として、平成30年度入学者から国際文化コースAではカナダ短期留学を実施。国際文化コース以外の生徒の海外留学の拡大については、相手先の受入状況を見極めながら検討を行うこととしている。

受入留学生の増加策としては、現在のカナダ、ニュージーランドに加え、大学と連携しながらマレーシア、アメリカへも交流校を拡大するべく、当該高等学校と協議を進める。

3. 施設設備の改修

公立高校、他の私立高校の施設改善状況を参考としながら、本校の特色に応じてより充実した設備整備に努める。

- ① 本館及び体育館のマスタープランの策定
- ② 本館女子トイレのリニューアル
- ③ 遠隔地施設設備（三条及び西山グラウンド）の補修、大学体育施設の供用を含め、体育施設の在り方の見直し。



IV. 京都外国語専門学校事業計画

【専門学校ビジョン】

平成10年に「アジアを学ぶ」をテーマに誕生した本校は、京都外国語大学のグループ校として、建学の精神「言語を通して世界の平和を」を持ち、語学力のみならず、国際社会に貢献できる個性と、自らの思考力と夢のある豊かな想像力を培い、アジアと日本を理解し、真の国際人として行動できる人材を育成する。

【方針】

- ① 入学定員200名の確保
- ② 在校生の退学率5%減
- ③ 卒業時希望進路達成率100%
- ④ グループ内他部門との連携強化。

【主な取組内容】

1. 20周年記念事業の実施

平成30年度に専門学校開設20周年を迎えることから、その記念事業として法人部施設管財課と連携しながら、Ⅳ号棟（学生サロンを含む）の改築整備を行う。また、Ⅲ号棟のコンピュータ教室のPCを更新し、教育環境の整備を図る。

2. 教育内容の整備

2年間で最大限の学力をつけるための指導法の開発、卒業時点のTOEICスコア担保方法の検討、OBを活用したチューター制度導入等在校生の退学率5%の減少を目指す。

3. 卒業時希望進路達成率100%に向けての取組

京都外国語大学の既存の併設校推薦枠に関して協議を行う。同時に新学部への編入条件（受講科目・認定科目等）に関する協議を行い、それらに対応したカリキュラムの見直しを実施する。

他に編入実施大学へのアプローチを行い、本校からの編入受け入れ枠増に向けての依頼を行っていききたい。

4. 海外協定校との連携強化

学生募集に繋がる魅力づくりとして、海外協定校との連携を強化し、韓国留学コースなどの設定を検討する。



3 つのポリシー

京都外国語大学
外国語学部
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>① 構想するために必要な力 私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力 自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 協働するために必要な力 立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。</p> <p>【学習成果】</p> <p>① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。</p> <p>② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力 専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。</p>



<p>③ 世界が抱える諸問題の理解 専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。</p> <p>【評価】 本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。</p> <p>① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究</p> <p>各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html#_02 に掲載。</p>
<p>アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）</p>
<p>本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻言語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人 ② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人 ③ 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人 ④ 外国語を学ぶ上での適性と基礎学力を有する人</p>

<p>京都外国語大学</p>
<p>国際貢献学部</p>
<p>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</p>
<p>国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことができる人材を養成することを教育目標としている。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</p>
<p>国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、専門科目に加えて必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に大別している。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 専門科目のコア科目では、本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」を理解し、学科で学ぶ基本的姿勢を身につけ、関連する Community Engagement を通して理論と実践の合一を目指す。（2 学科共通）</p> <p>②-1 専門科目の国際協力コース科目では、世界平和・世界秩序に関する幅広い知識と、人類に共通する地球規模の課題解決に貢献するために必要な実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、グローバルビジネスコース科目では、経済・社会の発展と人類普遍の価値目標である「豊かさ」に関する知識及びビジネスを通して国際社会に貢献するために必要な実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、国際協力とグローバルビジネスの両コースに関連する専門科目を通して、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。（グローバルスタディーズ学科）</p> <p>②-2 専門科目の観光政策コース科目では、地域が持つ固有の価値を尊重し、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展を可能とするために必要な知識と実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、観光ビジネスコース科目では、観光ビジネスで必要な幅広い知識と基礎理論、即戦力となる実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、観光政策と観光ビジネスの両コースに関連する専門科目を選択し、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。（グ</p>



ローバル観光学科)

- ③ グローバル社会で活動するための英語運用能力と第 2・第 3 外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。(2 学科共通)
- ④ 教養科目では、実践的な教養教育をめざすとともに、広く国際人として活躍し得る幅広い知識と公正で確かな判断力を身につけることができる。(2 学科共通)
- ⑤ 日本学インスティテュート科目では、日本独自の社会・制度・文化・価値観等について、外国人留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学び、日本に対する理解力と発信力を高める。(2 学科共通)

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。(2 学科共通)
- ②-1 多文化環境の下で学び、異文化間コミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行う。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 専門科目は国際的な観光文化都市である京都の立地条件を活かして、企業や地域社会と連携した「実学的・実践的な教育」を行う。(グローバル観光学科)
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。(2 学科共通)

【学習成果】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。
- ②-1 問題発見力・解決力
社会の急速な変化の中において問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動することができる。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 問題発見力・解決力
地域固有の価値を尊重しつつ、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展に資する新たな価値を創造することができる。(グローバル観光学科)
- ③ 多文化共生力
深い異文化理解力と高度なコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、国際社会や組織、コミュニティに貢献することができる。
- ④ 国際協力ないしグローバルビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
経済学、経営学、法学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決する。(グローバルコスタディーズ学科)
- ④ 観光政策ないし観光ビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
観光学、政策科学、経営学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決することができる。(グローバル観光学科)

【評価】(2 学科共通)

卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② Community Engagement の活動内容や成果報告
- ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

アドミッション・ポリシー (入学者受入に関する方針)

国際社会に貢献することに強い意欲を持つ人材を求める。

グローバルスタディーズ学科

【求める学生像】

- ① 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人
- ② 何事も主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人
- ③ 外国語のコミュニケーション能力を駆使して、積極的に国際理解を推進しようとする人
- ④ 国際社会のさまざまな諸問題に興味や関心を持ち、国際協力に従事したいと考えている人
- ⑤ 国際ビジネスの専門的知識を身につけて、国際社会で活躍したいと考えている人

グローバル観光学科

【求める人材像】



- ① 何事にも主体的に、積極的に取り組む意思のある人
- ② 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ③ 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、実践的な外国語のコミュニケーション能力を養うことによって、国内外のグローバルな環境で活躍したい人
- ④ 観光を通して地域の活性化に貢献したい人
- ⑤ 国際観光文化都市・京都をはじめ国内外の観光資源に興味を持ち、観光政策を立案・実践したい人

京都外国語大学

大学院外国語研究科

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語と文化の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

京都外国語短期大学

キャリア英語科

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。



【教育内容】

- ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や 4 技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 第 2・第 3 外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画内に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

- ① 語学力の育成
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力
英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解
英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人
- ④ 観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人
- ⑤ 学力を活かして 4 年制大学に編入学を望む人
- ⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人



【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域・文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
国際貢献学部	
世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことによってグローバル社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。	



グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
グローバル観光学科	観光に関するグローバルかつ総合的な観点から、様々な地域の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

前期課程	
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジアの3地域を軸にした言語・文化の専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
実践言語教育コース	創造的かつ柔軟な対応力を備えた英語教育又は日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
後期課程	
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。

【京都外国語短期大学 学科の目的】

キャリア英語科	
アカデミックとビジネスの2つのコースを有することを活かし、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
アカデミックコース	グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力を修得することを目的とする。
ビジネスコース	職場で働くための基本能力、表現力、社会人基礎力、国際人としての教養等を修得することを目的とする。